

ほんたん HONTAN

86号

図書館ボランティアの「本探」が旬の図書館情報をお知らせします！

今月の一冊

秋ですね。秋といえばハロウィンですね。日本では仮装をする日として定着しています。そこで、仮装ではなく本当にバンパイアになった少年の物語、『ダレン・シャン』シリーズはいかがでしょう。『奇怪なサーカス』から『運命の息子』まで全13巻あります。長いと感じるかもしれませんが物語の展開も早く、最後まで一気に読みしてしまうので大丈夫です。

普通の少年だったはずの少年ダレン・シャンが、ある日の事件を境にバンパイアの世界に足を踏み入れる。それは入ると抜け出せない血生臭い世界だった。それでもバンパイアの文化や伝統を学んだ。バンパイアとして友ができ、恋をして普通の生活が続くはずだった。しかし、運命は彼をもてあそんだ。

このシリーズは自分が中学生のころに初めて読みました。読む手が止まらず、ついつい夜更かししてまで読んでいたことを覚えています。それほどまでに魅力的な本です。

その魅力の理由は、やはり本の中の人たちが魅力的だからでしょう。主人公のダレン・シャンやバンパイアとしての師であり一緒に旅をするラーテン・クレプスリーなど、様々な個性あふれる人たちがいます。でも、ただ魅力的な人たちが出るだけでなく、そこに残酷な運命が現れる。その運命によって動かされる物語が読む手を止まらなくさせます。ぜひ一度読んでみてください

(ハヤシ)

所在	請求番号	資料 ID	閉架番号
閉架	933.7/S-[1]	388530	CS175530

今月の黒板展示

今回の黒板展示のテーマは「キノコ・コケ特集」です。秋になり、紅葉も濃くなってきましたね。私が秋と聞くと思い浮かぶのはキノコですね。高校の頃に学校行事で茸狩りがあったからでしょうかね。でも、札幌ではなかなか茸狩りに行く機会は少ないですね。でも、意外とどこにでもきのこもコケもあります。ホコリタケなどは公園でもたまに見かけます。また、コケもアスファルトのひびなどからきれいに生えていますよね。ぜひ展示している本を読んできのこやコケについて学んでみてはいかがでしょうか。

(ハヤシ)

今月のラック展示

こんにちは！HONTANです！季節の変わり目ですが、皆さんはお元気ですか？

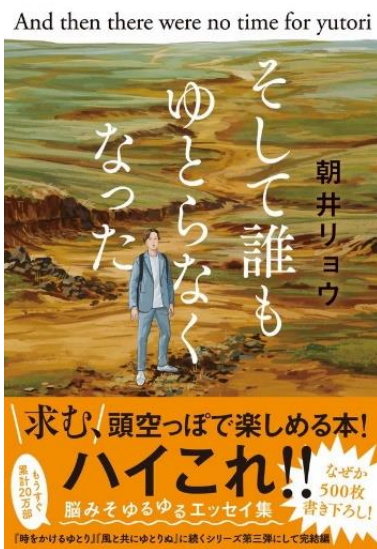
今回私たちが紹介するのは、「笑える本～公共の場で読んだらキケン！～」です。読んで字のごとく、公共の場で読むと、もれなく「何なんだこの人は」という目で見られてしまいます。抱腹絶倒、あるいは口角が上がりすぎて変な顔になること間違いなしです！

特にお勧めしたい本は、朝井リョウ著「時をかけるゆとり」です。改題前のタイトルは、「学生時代にやらなくてもいい20のこと」です。このタイトルから、「む、これは非常にためになる本なのでは？」と考えたそこのあなた、それは違うかもしれません。「どうしてだろう？」と思われたかもしれませんが、それは読んだ者のみ知ることですので、ご自身でお確かめください。

このように、とにかく笑える本を6冊紹介しております。繰り返しますが、公共の場で読むのは自殺行為です。ご自宅で読んで、笑って、免疫を活性化させましょう！

(モナ君)

最近読んだ本の感想



私が最近読んだ本の中で一番おすすめしたいのは朝井リョウ著『そして誰もゆとりがなくなった』です。私は普段エッセイを読まないのですが、こればかりは面白すぎて読む手が止まりませんでした。著者の胃腸が弱すぎるあまり、約半分の章が排泄に関する思い出で締められているエッセイは他にあるでしょうか。いや、ない。

お気に入りの話は「ガラス細工で小籠包を作ったら、小籠包というより小籠包を食べた後に出てくるモノに似ている。」というところです。地下鉄で読むことが多かったのですが、面白くてつい笑ってしまうので一生懸命口の中を噛み締めて笑うのを我慢しながら読みました。全人類に読んでほしいです。

所在	請求番号	資料 ID
3階和書	914.6/A	1047807

メンバーからの一言

読書の秋、ぜひたくさんの方に触れてみてください。

(ハヤシ)